

2020年度 秋季大会 審判伝達事項

大阪府小学生バレーボール連盟の秋季大会における審判員として、公正かつスムーズな試合運営が出来る様、各チームの帯同審判員レベル維持と、コロナ禍における試合運営方法について伝達します。今年度は審判伝達講習会が開催できない背景もあり、徹底は難しいため各自の努力目標として以下の内容を参考にしてください

1). ルールの確認

- ・令和2年度日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による
但し、小学生特別ルールのフリーポジション制を適用
(基本的な審判ルールは前年度より変更ありません)

2). 審判資格

- ① ベンチメンバー (JVA-MRS登録あり)
 - ② 日体協、日小連 (1次~3次)、OVAの指導者資格の保有者
 - ③ 公認審判員C級以上 (3次講習でC級資格取得者含む ※1)
 - ④ 審判講習会で受講証を取得された方 (前年度の取得者も可 ※2)
- ※1 B級への昇格は出来ない資格。
※2 受講証を持っていない方は各支部の審判委員へ申し出てください

北大阪/中腰、大阪市/金田、中北河内/中山、阪南/湖山

◎ベンチメンバー以外は審判変更届提出が必要。

資格証を首からぶら下げ、公認審判員は資格ワッペンを付けてください

3). コロナ対策の確認事項

(大会前)

- ・府小連が示した感染予防対策マニュアル・ガイドラインを順守する
- ・大会主催者が要求している「参加承諾書 兼 健康チェックシート」を提出する

(試合中)

- ・コート及びフロアへ入れるのはベンチ登録メンバー及び大会役員・審判団と補助役員のみなので、関係者以外が立ち入らないようチェックする
- ・試合前ミーティングやトスは距離を保ち手短に行う。試合前後に監督・選手との握手は行わない (ベンチ及びエンドラインに立ち挨拶のみ)。
- ・マスク持参し原則試合中以外は着用する。外す時は他者と2m以上の距離を確保し
大声・対面での会話は避ける
- ・電子ホイッスルを使用。今大会では本部で準備し各コートへ貸し出します

- ・タイムアウトやセット間などベンチに選手が集まったとき、間隔を空けるために若干コートに入ってもよい。向かい合っでの会話や指示は出来るだけ避ける
- ・消毒薬または除菌シート等各チームで用意する。コートチェンジはベンチの椅子を持って移動し、試合終了後に除菌シート等で拭いてから退出させる
- ・鼻血や出血等あった場合は、一旦コートから選手を退去させて大人が洗浄し安全を確認してから試合を再開する。(子供にさせない)

(大会後)

- ・大会終了後2週間以内にコロナウイルス感染症を発症した場合は支部長へ連絡し速やかに府小連へ報告を上げ対応指示を受ける

4). 審判判定のポイント

審判時に判定が難しいと感じるプレーの判定の仕方、判断基準

① キャッチ (ホールディング)

- ・基本、止まればNG。ほか極端に方向が変わる、放り投げもNG
- ・引き込み全てがNGではない。素早く手首でボールを弾き出せばグレー判断で流す
- ・ボールを捉える位置で判断しない。顔の前・胸の前でも、明らかに持ち上げる行為または不自然に方向が変わらない限りOK

【起きやすいプレー】

- ・ジャンプトス
- ・Cパス (走りながらのトスアップ)
※参考：Aパス/定位置。Bパス/1~2歩でトス
- ・後ろへ下がりながら頭の後ろからトスアップ (放り投げ)

② タッチネット

- ・直接ボールに関わるプレーが完了するまでの間にネットへ触れた場合
(例. アタック着地したときネットへ突っ込まないよう我慢したけど触ってしまった)

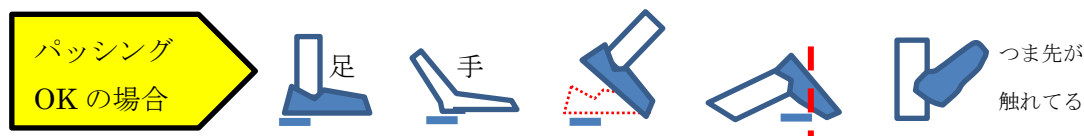
【取らないプレー】

- ・サイドバンド外側は、選手が触れてもOK。ボールはNG (アウトオブ・バウンズ)
- ・着地しアタックまたはブロック完了させてから、次の行動へ移るため振り向く時肘や髪の毛など身体の一部が触れた場合はとらない (上手く流す)
- ・アタックやブロック等のプレーをしている場所から離れて直接プレーに関係ないときに誤って触った場合はとらない (例えばコート反対側で起きた行為など)

③ ペネトレーション・フォールト (パッシング)

- ・相手コート面に触れても良いのは、足裏 (くるぶしまで)、掌 (手首まで) だけ
- ・つま先立ちでくるぶしが浮いていても、床に下した際にラインを踏める位置であればOK (続く)

- (続き) ・滑り込んでレシーブの際、膝・肘など上記でOKとした以外の部分が触れたらNG
 ・空中にある場合、相手の妨害にならなければOK (妨害したらインターフェア反則)

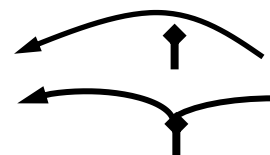


④ コンタクト (ワンタッチ)

- ・正しい見方：頭を真っ直ぐにし、視野を広くとる。判定時に頭を動かさない。ジャッジの瞬間は視線を固定し、指先の動きを注視するのではなく、ボールの軌跡を見る (TVの画面を眺めるイメージ)
- ・悪い見方：前屈みになり視線を一点に集中させる (ボールの変化が見れない)。ボールを追いかけるよう常に左右へ頭を動かす (視線がブレる)

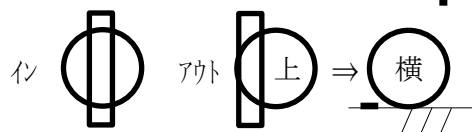
【判定ポイント】

- ・ノータッチ：きれいな放物線を描いてボールが飛ぶ
- ・ワンタッチ：触ったところでボールの軌道が不自然に変わる



⑤ ラインジャッジ

- ・ボールの中心線が外側へずれた場合はアウト
- ・ただし、ずれ量の判断基準は個人差あり
- ・少しぐらいの誤差なら子供の判定を優先し、明らかにおかしい場合は主審がオーバーコールで訂正する (最後に責任を持つのは主審です！)



⑥ ダブル・コンタクト (ドリブル)

- ・小学生のオーバートスでドリブルは取らない (1回目、2回目、3回目も同様)
 - ・アンダーレシーブも一つの動作中に連続して身体にあたってもドリブル取らない
 - ・ブロッカーは全員が触っても一つの動作とみなす
 - ・ブロックは1回目のタッチを数えない (9人制との違い)
- ※ブロックの定義：相手コートから返ってくるボールを止める行為

<ルールブックの購入方法> … 一般の書店では販売してません

- ・JVAホームページ <https://www.jva.or.jp/>

トップページのリンクに

「応援グッズ・ルールブック・ビーチバレーボール教本」というリンクバナーあり

- ・そこをクリックして、NBP ONLINE の紹介ページへ (ルールブックがリンクになっている)
- ・日本文化出版株式会社 (月刊バレーボール) 『NBP オンラインショップ本店』のリンクバナーをクリックすると購入ページへ

<http://shop.nbp.ne.jp/shopbrand/rb-vb/>

4). プロトコール（手順） …小学生特別ルールに基づく実施例

時間	主審	副審	記録	線審	得点	備考
~05分	本部の指示で合同練習開始し、自らも計時開始。両チームにサブオーダーの提出求める		IF を本部で受取り記録席で準備	密集を避けコート後方で待機	得点板付近で待機	背番号で参加選手の照合
01~02分	練習終了の吹笛し選手は一旦ベンチに下がらせ、両監督に IF へサイン促し、両キャプテンにトス実施と IF へ署名		記録準備(サブ順他)	待機	待機	記録もトス結果確認
~03分	トスとサイン終了後、サブ権選択チームの公式練習開始の吹笛	タイムコントロールは副審の責務	準備終わってなければ継続	待機中に主審から注意を受ける	待機中に主審から注意を受ける	特になければ不要。注意する場合は手短に
~03分	待機	公式練習3分で交代の吹笛	準備終わってなければ継続	待機中に主審から注意を受ける	待機中に主審から注意を受ける	特になければ不要。注意する場合は手短に
合計 11~12分	公式練習3分で終了の吹笛	待機	準備終わってなければ継続	待機	待機	
~12分 ※	記録席から見て左に立ちセンターライン沿いに審判台へ移動後、エントラインに並べた選手を吹笛を合図にコート中央へ双方駆け寄せネット越しに握手挨拶させる	記録席から見て右に立ち主審の動きに追随して審判台まで移動後、主審の吹笛で一礼	記録席で待機	待機場所からフラッグを持って各位置に移動し起立姿勢で待機	待機場所から得点板の場所へ移動し起立姿勢で待機	

※12分以降の時間は参考

時間	主審	副審	記録	線審	得点	備考
~13分※	選手を副審・記録席側に向けて立たせ、アタックライン側からサーブ順に並べる。副審はサーブオーダーで確認し、記録員と相互確認してOKなら両手上げる		記録員もサーブ順と相違ないか確認し、OKなら両手上げる	各位置で待機	各位置で待機	背番号で選手の照合確認
~14分※	吹笛は不要。ボールをサービスチームへ渡す		記録準備(サーブ順レ)	待機	待機	
~15分※	記録員とアイコンタクトでサーブ順確認し、サーブ打つ準備が出来たのを確認してから吹笛	レシーブサイドに立つ	吹笛した時間をセット開始時間として記録する	判定姿勢をとる	得点掲示準備(通常は、得点板の横に立つ。椅子が有る場合は座る)	

※12分以降の時間は参考